

インフォメーション

お問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

サポセンスタッフから



地域でまちづくり活動に取り組む人たちを応援します

仙台市各区まちづくり推進課は、市民との協働によるまちづくりを推進し、様々な地域の課題解決や魅力向上に取り組んでいます。その中で、市民活動によるまちづくり活動への助成金交付事業があります。審査を行うのは、まちづくりの知識や経験のある市民で構成された、区民協働まちづくり事業評価委員会(以下、評価委員会)です。

太白区では、去る1月29日に評価委員会の主催で、「区民まちづくりサロン〜カフェたいはく〜」を開催。町内会役員の方や、市民活動の担い手の方など約20名が参加しました。助成団体の活動報告会や、互いの活動について情報交換を行いました。また、交流会の後には、まちづくり活動や助成金申請に関する相談会も実施。

サポセンは、サロン事業におじゃまし、助成金の申請や日頃の活動のあり方に至るまで、活動者の様々な相談に対応しました。今後も各区のまちづくり推進課と連携を図りながら、地域の皆さんのまちづくり活動が発展するよう、取り組んでいきます。(佐藤)



サポセンスタッフから



まちのわライブラリー 「住民発信！多様な力で取り組むまちづくり」

開催日時:2017年3月16日～4月15日

場所:仙台市市民活動サポートセンター1階まちのわライブラリー

まちのわライブラリーは、サポセンスタッフが全国各地から収集した、フリーペーパーやユニークな小冊子、書籍が読めるコーナーです。市民団体と企業、行政などが協働で作成したものや、協働の事例をまとめた報告書などを読むことができます。多彩なまちづくりの様子を覗いてみると、地域の課題解決のためのヒントや活動のきっかけを見つけることができますよ。

3月は、町内会や自治会など住民同士のコミュニティが、学校や行政など様々な主体と連携をしながら地域づくりに取り組む様子を紹介します。様々な立場の人たちが自分たちの住むまちについて、共に考えることで、新しいアイデアやユニークな手法を生み出しています。ぜひ、情報収集や課題解決のヒントにご利用ください。(小野)



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日：3月8日(水)・22日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分

[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukku/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターや学生記者が、
仙台の市民活動団体やワクワクビト取材しています！

▶市民ライター
https://kacco.kahoku.co.jp/author/writer
▶情報ボランティア@仙台
https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2017年3月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 松村 翔子 黒川 夕紀
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 3

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2017 No.211

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

クライミングサークル Magic Wall

おつき ともゆき

大槻 智志 さん (46)

障がいの有無を超え、 ともに壁に挑む

カラフルな突起を頼りに、壁を上へ上へ。「登り切った時の爽快感が魅力です」。仙台市泉区の会員大槻智志さんは月1回、仲間とクライミングを楽しんでいます。

19歳の時、骨肉腫で右足の太ももから先を切断。5年間治療に専念しました。社会に出てからは、周囲への遠慮からストレスを溜め込んだり、今まででできたことができなくなったことで自信を喪失したり、悶々とした日々が続きました。

障がいとの向き合い方が変わったのは、30代で始めた車椅子バスケ。共に汗を流し、気兼ねなく話せる仲間と出会いました。2012年には、練習会場でクライミングに出会い、Magic Wallの一員に。クライミングは障がいがあっても、介助者や特別な道具を必要としません。「障がい者も健常者も、お互いに教えあうことができるのがいい」と、障がいの有無を超え、切磋琢磨する場づくりに力を入れます。「できなくても大丈夫。まずは一歩踏み出してみよう」。大槻さんは、自ら行動で示します。

取材・文 高橋 直道(東北大学3年)

クライミングサークル Magic Wall

HP https://magicwall2011.jimdo.com/

障がい者にユニバーサルスポーツとしてのクライミングを知ってもらおうと、2011年8月に発足しました。団体名の由来は、東京のNPO法人Monkey Magic。視覚障がい者らを対象としたクライミング教室を展開する先行団体に敬意を表し、名前の一部をもらいました。障がいの有無、性別に関わらず10人で活動しています。拠点は、青葉区国分町のクライミングジム「ビーナッツ」など、市内とその近郊のジム。施設利用費などは各自負担で、参加費は無料。随時メンバーを募っています。

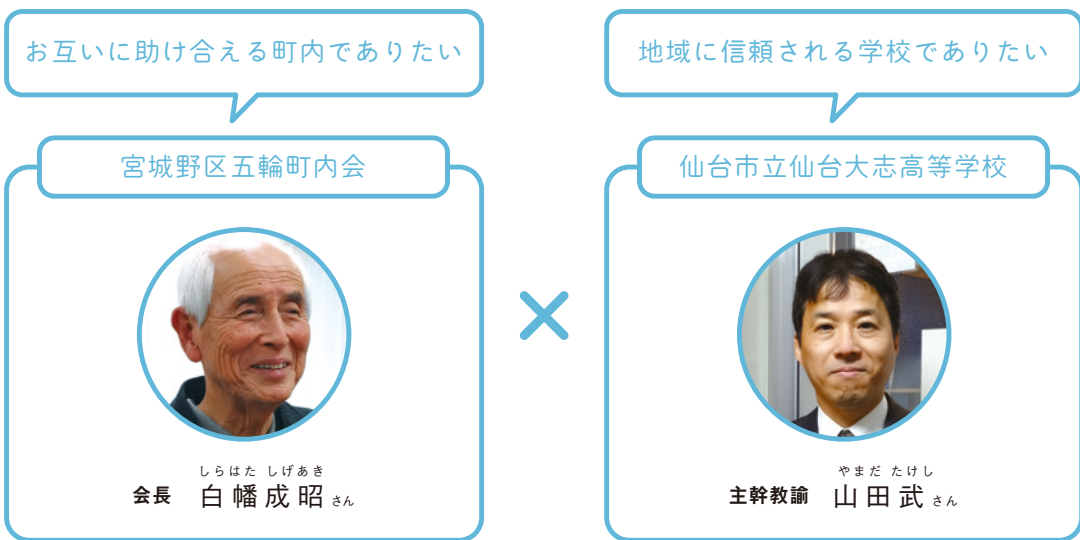
特集

学校と町内会の関係プレーで

取り組む共助のまちづくり

学校と町内会の連係プレーで 取り組む共助のまちづくり

6年前の東日本大震災では、仙台市も大きな被害を受けました。個人が自分の身を守る「自助」で災害に備えることも必要ですが、それだけでは十分とはいえません。有事の際に近所の人と連携し対応することが大切です。では、いざというときに助け合える信頼関係はどのように築けばよいのでしょうか。今回は、文化交流事業や防災訓練などを通じて、宮城野区五輪地域の学校と町内会が連携した「共助」の取り組みを紹介します。



常日頃から顔の見える関係性をつくる

仙台市立仙台大志高等学校(以下、大志高校)は、地域から信頼される学校を理念としています。通学しているのは、多様な生活スタイルや学習歴を持ち、年齢も様々な生徒です。地域とのつながりに重きを置き、教員や生徒たちが地域に出て、町内会と顔の見える関係性を醸成しています。2009年4月に創立して以来、所在地である五輪地区の町内会と連携し、地域の清掃活動や防災訓練など、多岐に渡る活動に取り組んでいます。

地域の信頼関係を育む「GTカルチャー」

東日本大震災後、大志高校は指定避難場所に指定され、これまで以上に地域とのつながりが重要になりました。一方、五輪町内会は、震災を契機に、「有事の際に住民同士が助け合う町にしたい」と考えるようになりました。しかし、五輪町内の約1000世帯のうち6割がアパートやマンションに住んでいます。中には通勤族も多く、共助の意識

が芽生えにくいこと、マンションごとに自治会があるケースも多く、他の町内会とのつながりが少ないことが課題でした。そこで、五輪町内会は震災前から地域活動を共にしていた大志高校に、高校・町内会・住民が世代を越えて交流する機会作りを提案。2015年6月、「GTカルチャー」という文化交流事業が始まりました。事業名には、五輪町内会と大志高校の頭文字を合せ、親しみを込めました。大志高校を拠点に、住民と生徒たちが、紅花染めや水引による小物作りをしたり、仙台管区気象台などの地域機関と連携した災害対策講座を開いたり、これまで9回の事業を実施。生徒たちも、多様な人たちに囲まれながらボランティアとして活躍し、交流を深めてきました。GTカルチャーを通じ、地域の人同士顔の見える関係ができ、指定避難所である高校は、日頃から地域の人々が訪れる場所になりました。大志高校主幹教諭の山田武さんは、「有事の際、地域の方々にとって、知っている人が居て、安心できる場所でありたい」と、避難所としての役割を話します。

「1人ひとりが一生懸命活動に取り組んだことが、生徒の社会貢



■連絡先

仙台市立仙台大志高等学校 〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-4-10 TEL 022-257-0986
五輪町内会 〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-3-21 TEL 022-291-5652

献への意欲向上につながっている」と、山田先生は生徒たちの変化を感じています。五輪町内会会長の白幡成昭さんは「先生と生徒たちが、共助の取り組みに多方面で協力してくれる」と感謝しています。

共助の取り組みを継続する

2016年10月、宮城野消防署原町出張所の指導のもと、指定避難所開設訓練を実施しました。高校関係者、町内会役員、住民など約64名が参加し、炊き出し訓練では、町内会婦人部が腕をふるいました。翌11月、大志高校は、隣接する仙台市立宮城野中学校の生徒たちとも、防災ワークショップを開催。共助のネットワークは、さらに広がっています。

「有事の際、互いに助け合う町にするためには、まず地域に興味を示してもらうこと、そして協力してもらうことが大切です」と白幡さん。会長として、今後も住民の活動を支えていこうと意気込みます。大志高校も、生徒に限らず保護者や地域の人など、学校に関わる全ての人々が安心安全に暮らせる地域づくりに、今後も取り組んでいきます。日頃の信頼関係が、共助の取り組みを支えています。(取材・執筆 嶋村威臣)

お立ち本

せんだいノート ミュージアムって何だろう？

編集:仙台・宮城ミュージアムアライアンス/出版:三樹書房

土地の文化、風習、自然、歴史、美術など様々な視点でまちの姿を切ったエッセイ集です。南三陸町で、町の人の幸せを願い伝承されてきた「きりこ」の飾り、日清戦争の頃、中国からやってきた「仙台白菜」がもたらした食文化の歴史、昭和時代に人気を集めた街頭紙芝居の現状など、「東北の暮らし」や「地域の文化を支える人」を取材し紹介する本書は、まるでミュージアム。様々な角度から、まちの姿を再発見できる一冊です。



コトハジメ

大切な思い出が、持ち主のもとへ帰るためのお手伝い

NPO法人おもいでかえるは、東日本大震災で水や泥をかぶった写真を洗浄し、持ち主に返却しています。任意団体として活動を始めたのは、2012年3月。これまで11万枚以上の写真を持ち主に返却してきました。これまでの経験を活かし、現在は、地域を問わず水害で被災した写真も洗浄しています。思い出の写真は、その人の人生の一部。写真を整理・洗浄するボランティアを募集しています。問い合わせ NPO法人おもいでかえる TEL:070-5473-3585(担当:金谷) HP「おもいでかえる」で検索



ここチェック

仙台防災未来フォーラム2017

-経験伝える・共有する・継承する-

震災経験と教訓を世界・未来へ「伝える」ためのフォーラムです。テーマセッション、ブース展示、ミニプレゼンテーションを通じ、震災経験の伝承、地域防災の次代の担い手づくり、人々の多様性と防災など様々なテーマから、未来の防災と今後の課題を考えます。

日時 3月12日(日) 午前10時～午後6時 会場 仙台国際センター展示棟
主催 仙台市 HP <http://sendai-resilience.jp/mirai-forum2017/>
問合せ 仙台防災未来フォーラム2017 運営事務局 TEL.022-217-7851



仙台防災未来フォーラム2017
-経験伝える・共有する・継承する-



市民ライター 阿部えりこ

男性の生き方の多様性を考える Re-Design For Men

男性の男性による、男性を考えるための勉強会を開いています。月1回、「男と仕事」や「男とプライド」などのテーマに沿って話し合います。「男は仕事をして女性を守り、強く生きる」という既存の男性像ではなく、自分らしく生きることを目指し、10代から60代の男性が、10名ほど参加しています。

発起人の西井開さんは、対人支援の仕事に強く惹かれ、勉強の一つとしてジェンダー論を学びました。その中で社会の「男性はこうあるべき」との圧力から生じる、男性の生きにくさに気づきました。一方、仕事以外で他者と関わる機会が少ない男性も少なくありません。「何でも話せる男の居場所」の必要性を感じた西井さんは、ジェンダー論を学んだ仲間とともに2016年6月仙台で活動を始めました。

普段は「男だから」と誰にも話せず我慢してきた弱音も、ここなら話せる。「男性も自分の弱さや限界を知ると、自分と他者の違いを尊重することができる。生き方の多様性を認めることもできる」と西井さん。

自分らしい生き方は、性別にとらわれず多様なモノサシで考えることができると知りました。この活動が、仙台に定着していくのを見守りたいです。



▲仙台市内で行われた勉強会の様子(左から二番目が西井さん)。皆さんも一緒に語り合いたいです。

■連絡先

Re-Design For Men(リデザイン フォーメン)
Facebook :@RDFM0625